



南の躍動

令和8年度 第2号



奄美のよさを生かした魅力・活力ある教育の推進

大島教育事務所 令和8年8月21日

「命と未来を託される存在」として～不祥事根絶と温かい職場づくり～

管理課長 毛利 真吾

先月開催された臨時的任用教員等の研修会で、私は冒頭で次のように伝えました。「教職員は、勤務初日から年齢や経験に関わらず『先生』と呼ばれ、教育公務員としての行動を求められます。保護者からは命と未来を託せる存在であり、子供にとっては憧れの大人の一人です。その重みを感じて教育活動に取り組んでほしいです。」

しかし、昨年度の懲戒処分件数は28件に上り、わいせつ行為やセクシャルハラスメント等重大な事案が相次ぎ、教職員への信頼を揺るがしました。本年度も5月15日現在、既に3件の処分が行われています。これらの要因は一つではありませんが、平成24年10月5日に県の不祥事根絶委員会が取りまとめた「教職員の不祥事根絶を目指して（提言）」では、不祥事の要因を資質・勤務体制・環境の3点に整理し、「モラルの向上」「より開かれた学校づくり」「働きやすい環境づくり」を対策として挙げています。

不祥事は、被害に遭われた方の尊厳を傷付ける重大な人権侵害です。児童生徒や保護者、地域からの信頼を失うだけでなく、本人や家族の人生にも影響します。決して限られた人だけの問題ではなく、「誰にでも起こりうるもの」です。だからこそ、「自分事」として受け止めることが大切です。学校が抱える課題が複雑化する今、多様な児童生徒への指導や保護者・地域からの期待等、先生方のプレッシャーは大きいのではないのでしょうか。だからこそ、指導上の悩みや保護者対応、職場の人間関係等、どんな小さなことでも相談できる環境が必要です。互いに弱音を吐き、助け合える温かい職場をつくっていきましょう。

魅力ある学校を実現するための「意識調査」

「魅力ある学校づくり」を進めるためには、子供の声を聴く「意識調査」を基に教育活動を振り返ることが必要です。

現在の学校生活について、あなたはどのように感じていますか。
当てはまるものを1から4の中から選び、その番号に○をつけてください。

	当てはまる	どちらかと言えはまる	どちらかと言えはまる	当てはまらない
ア 学校が楽しい	1	2	3	4
イ みんなで何かをするのは楽しい	1	2	3	4
ウ 授業に主体的に取り組んでいる	1	2	3	4
エ 授業がよくわかる	1	2	3	4

- ① 調査結果と学年の実態から、最も向上させたい質問項目（ア～エ）を一つ選択する。
- ② 選択した項目が次の調査で向上するための具体的な取組を決める。
- ③ 決めた取組は、次の調査まで全教職員で確実に取り組む。
- ④ 調査を年3回位置付け、PDCAサイクルによる取組の点検・見直しを行う。

新たな不登校児童生徒を出さないためにも、教職員同士が支え合い、学び合いながら、年間を通して教育活動を点検・見直しを行い、全教職員で魅力ある学校を実現していきましょう。

道徳科の授業をアップデート～ICTで広がる学び～

今年度の6月、宇検村立久志小中学校と伊仙町立犬田布中学校において、地区道徳教育研修会を実施しました。授業では、タブレット端末を活用して事前アンケートの結果を提示することで、児童生徒の考えを可視化し、課題意識をもって学習に臨む工夫が見られました。他にも、話し合い活動の前に、自分の考えを入力・共有することで、多様な意見を比較する姿や、友達の考えを参考にしながら自らの考えを広げたり深めたり姿も見られました。

小規模校の多い本地区では、ICTを活用した遠隔合同授業等を行うことで、児童生徒が多様な考えに触れる機会を確保でき、多面的・多角的に考える力を育むことも期待できます。今後も各学校において、道徳科のねらいに応じたICTの効果的な活用を積極的に進め、授業の一層の充実につなげていきましょう。



全国学力・学習状況調査結果を授業改善に生かす

調査の結果から、本地区では「算数・数学の正答率が低い」「学年が上がるにつれて定着していない内容が増加している」「正答数の少ない児童生徒の割合が高い」といった継続的な課題が見られます。こうした課題を改善するためには、児童生徒が「分かったつもり」で終わらない授業づくりが重要です。知識・技能が十分に身に付かないまま次の学習へ進むと、学年が上がるにつれてつまずきが大きくなります。そこで、授業では次のことを大切にしたいです。

- 考える力の土台となる知識及び技能の確実な定着を図る。
既習事項を繰り返し想起し、学習の中で活用する。
- 「分かったつもり」で終わらない授業を目指す。
説明する、比べる、理由を話すなど、知識を活用する活動を通して理解を確かめる。
- 授業の中で児童生徒の学びを丁寧に見取る。
つまずきや理解の状況を見取り、その場で指導を調整する。

「教えた」ではなく「児童生徒が身に付けたか」という視点を大切にしたい授業改善が学力向上につながります。調査結果を授業改善に生かし、日々の授業を見直す好機としていきましょう。

ICTの効果的な活用で拓く、極小規模校の学び（大和村）

大和村では複式学級において多様な意見に触れる機会や学び合いの充実を図るため、ICTを活用した学校間連携を推進しています。名音小学校と今里小学校では、同学年の児童をオンラインでつなぎ、両校の担任が協力して合同授業を実施しています。児童は他校の仲間と意見交換を行い、多様な考えに触れながら学びを深めています。また、本年度は大和村教育DX部会を設置し、4小学校・中学校の教職員が連携して教育DXを推進しています。生成AIを教材作成や授業づくり、児童の思考を深める問いの工夫等に活用し、校務の効率化と授業の質の向上を図っています。今後もICTと生成AIを効果的に活用し、児童生徒一人一人にとってより良い学びの環境づくりを進めていきます。



瀬戸内の強みは「ICT」（瀬戸内町）

瀬戸内町では児童生徒一人一人の学びをより豊かなものにするため、ICTを積極的に活用した教育を推進しています。授業や家庭学習では、デジタル学習ツールを日常的に活用し、自ら考え、学びを深める力を育てています。また、海外の学生とのオンライン交流や、遠隔授業・プレゼンテーション活動等、多様な学びの機会を設けています。教職員についても、民間事業者と連携し、クラウド型教育環境や生成AIを活用した教育DXを推進し、民間企業による生成AIやICT活用に関する研修、町主催のオンライン研修等を継続的に実施しています。児童生徒と教職員が共に学び続ける環境を整え、社会を生きるために必要な資質・能力を育む教育の充実に取り組んでいます。



ICT機器を利活用した「徳之島型モデル」の推進（徳之島町）

徳之島町では小規模校・複式学級の教育課題を解決するため、ICTを活用した遠隔合同授業「徳之島型モデル」を推進しています。児童生徒に対しては、離れた学校同士をオンラインでつなぎ、多様な考えに触れながら協働的に学ぶ機会を充実させています。教師が児童と直接関わる時間を確保するとともに、発表や対話を通して思考力、判断力、表現力等の育成を図っています。教職員に対しては、2校の担任が協力し、授業づくりや評価、教材研究を連携して行う体制を整えています。さらに、ICT機器や授業支援ソフトを活用して学習状況を共有するとともに、学校間で授業実践を振り返りながら指導力の向上を図り、質の高い教育の実現につなげています。



【タイトル横の写真】大和浜の国指定天然記念物オキナワウラジログシ林。日本最大のドングリが実る。（大和村教育委員会提供）